

各 位

会社名 株式会社ウェッジホールディングス  
代表者名 代表取締役社長 田代 宗雄  
(コード 2388 大証 J A S D A Q 市場)  
問合せ先 取締役 庄司 友彦  
(TEL 03 - 6225 - 2207)

## 平成 24 年 9 月期第 1 四半期決算短信補足説明資料 (第 1 四半期の国内事業業績について)

当社の 2012 年 9 月期第 1 四半期の国内各事業業績について解説をご報告いたします。

### 記

#### 1. 概況：優良事業への選択と集中の成果で大幅増益達成

国内事業	2011 年第 1 四半期	2012 年第 1 四半期	増減	増減率
売上高	339 百万円	315 百万円	△24 百万円	△7.1%
営業利益	19 百万円	31 百万円	+12 百万円	63.4%

第 1 四半期においては、当社国内事業は売上高 315 百万円、営業利益 31 百万円となりました。前 2011 年 9 月期第 1 四半期と比較しますと、売上高は 24 百万円 (7.1%) の減収となりましたが、一方、営業利益は 12 百万円 (63.4%) の大幅な増益となりました。

これは、この数年間続けてまいりました事業の選択と集中により、撤退した事業分は減収要因となる一方、資源を集中して取り組んでいる事業については、体制整備も進み成長基調の事業が増加して増益要因となるなど、改革の成果が顕著となりつつあることによるものです。

また前期中に昭和ホールディングス株式会社のグループとなり経営資源強化が進展するとともに、国内における販売管理費用の相対的な低減が進んだことも収益改善要因になりました。主な事業の状況を下記に解説いたします。

#### 2. カードゲーム (コンテンツ事業) :

##### 制作タイトルが最高売上高を更新、ロイヤリティ収入も拡大し大幅成長、大幅な増収増益

トレーディングカードゲームを中心としたゲーム関連のコンテンツの企画・制作を行っており、当社グループのコンテンツ事業の中核となります。カードゲームの市場は国内において活況が継続、世界的にも拡大している状況であり、当社は日本国内市場の草創期から制作を通じてノウハウを蓄積しており、優良な取引先と安定的な関係性を築きながら事業展開しております。

当第 1 四半期累計期間においては、当社が制作を手がけるカードゲームのうち複数タイトルが、四半期での過去最高売上高を更新、当社が受け取るロイヤリティ収入も増加して好調となりました。また従来から営業を強化してきたゲーム関連コンテンツの制作受注は堅調に推移、納入実績を重ねていることから連結業績に大きく貢献しています。

#### 3. 編集・電子出版・配信 (コンテンツ事業) :

##### 書籍出版を前期に縮小、書籍編集の受託と電子書籍関連で受注拡大へ。減収ながら増益基調

エンターテインメント分野における書籍・雑誌などの編集事業は当社の創業事業であり、大手出版社を初めとした幅広い顧客基盤を有しております。

従来型の書籍出版は継続的な市場の縮小が続いております。また、同時に電子書籍出版は年々活況を呈しております。前期末からは出版社をお取引先とした編集事業とコミックの携帯配信等の電子書籍に資源を投下する方針としておりました。そのため当第 1 四半期では、書籍出版を減少させました

。前年比で減収となる要因となっております。その一方で、営業体制の整備を進めた編集事業では新規案件の獲得も順調に進展し、今後の売上高を見込んでおります。又、コミック配信を初めとした電子書籍の新領域にも早期から取り組んできたことから、電子書籍の受託制作等新たな領域への拡大に積極的に挑戦を続けており、今後、在庫の減少による効率化、収益拡大につながるものと考えております。

#### **4. 音楽出版（コンテンツ事業）：**

##### **独自性の高いインディーズ音楽レーベルとして成長続く、増収増益達成**

当社の音楽出版は 2008 年に小規模のインディーズ音楽レーベルとして事業を開始しております。CD アルバムの販売数の全体的な低下する中、小規模でも相対的に収益の安定した市場に注力する戦略をとり洋楽・邦楽とも特定ジャンルに強いレーベルとして独自展開を図っております。

当第 1 四半期連結累計期間においては、洋楽・邦楽ともに堅調に推移して主要な作品の CD 販売が好調だったほかアーティストに関連した物販収入なども着実に拡大するなど収益の多様化が進み増収を保っております。また新たなアーティストの獲得も順調に進みました。

##### **5. 物販事業：低調な市場に取扱い商品拡大で対応するも苦戦が続く、減収増益へ**

物販事業においては、海外玩具や海外コミックスの輸入と卸売、店舗及びECサイト等を通じた個人向け販売を手がけております。長期的に玩具市場が低調ななか、特に当社グループが手がけてまいりました欧米を中心とした海外輸入玩具においては、海外メーカーから発売される商品点数が毎年減少する等、縮小傾向が顕著でありました。

当 1 四半期においては売上高構成の一部を玩具から当社取扱の多いキャラクター関連の雑貨類に広げることや、独自開発商品の取り扱い分野に取り組む一方、在庫管理並びに固定費削減を強化しました。こうした中で減収となったものの、赤字幅を大幅に削減いたしました。今後はそれらに加えて当社の取扱シェアが高く優位性あるカテゴリーに注力する施策を通じて、新たな売上高獲得に向けた取り組みを進めることで業績改善を図ってまいります。

##### **6. 投資育成事業：前期より海外に集約。再編による経営資源の有効活用へ。統合により廃止**

前年同期には投資育成事業で約 26 百万円の売上高を計上しておりましたが、前期中に同事業の海外への集約を行うこととしたことから、当第 1 四半期において国内事業で売上高が減少する要因となりました。なお、同時に投資育成事業がグループの機能成長をM&Aを通じて支援する特色を強めていることから、当第 1 四半期から投資育成事業はその他セグメントに含めて開示することとしています。

##### **7. その他の事業：昭和ホールディングスグループスポーツ事業との協業の進展でコスト削減。**

その他の事業として前年同期には新規事業として取り組んだスポーツ関連事業が含まれておりましたが、事業立ち上げ段階であったため期中の売上高は若干であり約 23 百万円の損失でありました。前期から同事業では昭和ホールディングスグループとの協業を推進した結果、固定費が大幅に削減されました。売上高への影響はありませんが営業損失は 58 万円に留まり国内事業の収益改善につながっております。

##### **8. 今後の見通しについて**

国内経済情勢は依然として厳しい状況が続く、特に中長期的にも少子高齢化などが大きく事業環境に影響を及ぼす状況が続いております。そのような中当社グループの国内事業はコンテンツ事業を初めとして外部環境の影響を大きく受けつつも、不断の変革を通じて対処を続けてまいりました。当第 1 四半期を終えまして国内事業においては改革の成果は概ね着実な実現をみていると考えるところです。今後も一層の改善を推進してまいります。当初の計画から進捗を鑑み従来どおりの見通ししておりますが、今後変更のありました際は改めてお知らせいたします。

以 上